新型コロナウイルス対応緊急支援助成
事業計画（実行団体）

事業名(主)※20字以内	コロナウィルスに負けないまちづくり
事業名(副)※20字以内 ※任意	食を通じた貧困・孤立の相談と支援活動

入力数　主　17 字　　副　18 字

実行団体名	特定非営利活動法人アテラーノ旭
資金分配団体名	一般社団法人全国コミュニティ財団協会

助成事業の区分

☑	**食事･食料支援事業分野**	地域の困窮者むけの子ども食堂、地域食堂等の形態の食事・食材提供：対象者は困窮状態にある、親子、高齢者、大学生・留学生等への支援
☑	**相談･住居支援分野**	社会的孤立の高リスク層に対する相談と援助の提供：LINE等、電子メール、電話、対面等による相談＋ハウジングファーストを念頭においた住居支援、福祉資源との接続、DV等シェルター運営支援等／新形態に必要な感染予防＆電子機器等の資機材等の購入、紙媒体情報の配布、多言語支援含む
☐	**連携促進分野**	支援、福祉資源との接続、DV等シェルター運営支援等／新形態に必要な感染予防＆電子機器等の資機材等の購入、紙媒体情報の配布、多言語支援含む

優先的に解決すべき社会の諸課題※該当する領域および分野を☑してください

領域		分野	
☑	1) 子ども及び若者の支援に係る活動	☑	①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
		☐	②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
		☐	③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
☑	2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	☑	④働くことが困難な人への支援
		☑	⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
☑	3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	☑	⑥地域の働く場づくりの支援
		☑	⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題 ※50字以内	☐	

入力数　　0 字

SDGsとの関連

ゴール
_1.貧困をなくそう
_5.ジェンダー平等を実現しよう

実施 時期	2020	年	12	月	23	日	～	2021	年	5	月	31	日	事業実施 地域名称	高知県	高知市旭地区とその周辺

	事業対象者：(事業で直接介入する対象者と、その他最終受益者を含む)	**事業対象者人数**	
1	DV被害者やうつを病んで孤立し高知市女性センターやクリニックからアテラーノ旭に相談が来た方	2	人
2	統合失調症と診断され周辺住民から孤立し、担当のケアマネージャーさんからアテラーノ旭に相談が来た方	1	人
3	こども食堂が開かれなかったり子ども食堂へもでかけられず食事をなかなかとれない子供たち	30	人
4	ホームレスの人たち（ホームレス支援団体「こうちネットホップ」との連携）	18	人
5			人

Ⅰ.団体の社会的役割

(1)申請団体の目的※200字以内

私達は、旭のまちで高齢化や空洞化が進むと同時に生活の貧困化も進んで人のつながりが希薄になり、生活に困っているということも周囲に言えない社会になってきていることを憂い、人と人のつながりや助け合いの力を再び呼び起こし、行政機関や医療機関・住民団体等と連携をはかりながら地域のゆるやかなネットワークを築き、町の中で暮らす人の生活の中心になる場をつくり、まちに活力を生み出すことを目的としています。

(2)申請団体の概要・事業内容等※200字以内

最初に設立した当初は**「まちのお茶の間」**として皆が自由に集まり食事やお茶を楽しみながらおしゃべりをする場から始まりました。お茶の間は**困りごと等を寄せる窓口**にもなっています。「あったかふれあいセンター事業」をきっかけに始めた**配食事業**は昼食と夕食を配達しています。近くの民家の土間を借りて**「いきいき百歳体操」**、最近からは**「子ども食堂」**、**大学生への食材配布**、その他**地域の諸々の相談**にも応じています。

入力数 **(1)** 196 字 **(2)** 196 字

Ⅱ.事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題※800字以内

身近な問題としては、今まで「まちのお茶の間」に来ていた高齢者が、新型コロナの感染を恐れてこなくなる人が増えたり、「いきいき百歳体操」に参加する人が少なくなりました。高齢者が家にひきこもると筋力の低下や認知機能の衰えが心配されます。さらに孤独によるうつ状態になるケースもあります。

また、コロナ禍による生きづらさから、本来抱えていた統合失調症がさらに悪化し、幻覚・幻聴による本人のつらさと同時に、近隣住民の人達の不信や不安が広がっている事例もあります。

9月に近所の料理屋が閉じられました。コロナ禍が原因だと思われます。旭の町で何世代も続いた老舗でした。コロナ禍によるパート職員・派遣社員等の雇止めや解雇された人も増えています。旭地域は高知市内でも貧困率の高い地域だと言われてきました。さらに高知は離婚率も高く、父子・母子世帯が多いところです。そうした家庭では仕事を失うことは即家庭崩壊につながります。

私達と連携して活動してきた子どもの居場所「みんなのひろっぱ」を運営している代表の中島香さんは、「学校給食のない日はきちんとした食事ができない子どもが旭にはたくさんいる」と話していました。コロナ禍が進み、経済不安が進めばもっと深刻な状況が生まれると危惧されます。

リーマンショックの時もホームレスの人たちが増えました。そして「仕事もない、金もない、もう死ぬしかない」と相談に来た人がいたことを私たちは経験しました。しかし、今の社会には自己責任論が拡がっています。コロナ禍は自己責任ではありません。経済的問題・精神的問題を抱えている人が「困っている」と声を上げ相談する窓口をつくり、対応する場をつくることが大切だと考えています。

入力数 719 字

Ⅲ.事業内容

(1)事業の概要※300字以内

これまで高齢化や空洞化が進んだ旭地区も、コロナ禍で一層困窮が進んだ人たちが増え、周辺住民や行政組織からも相談も増えるようになりました。特に①DV被害者やうつなどで孤立した人②統合失調症を患い周りから孤立した人③子ども食堂にも来れず食事ができない子ども④ホームレスの人などが深刻になっています。こうした人たちに私たちの経験を活かした『食』で支援し、孤立と貧困の解消をめざします。支援にあたっては地域住民や他の団体、行政との連携を強くしていくこと、医師や看護師などの専門家とのつながりも強くしていきながら、私たちがつながりの中心になっていくことも目指します。

入力数 278 字

(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態※200字以内

孤立したり生活に困難を抱えている人達と一緒に食事をしたりお弁当を届けて、私たちと近隣住民、行政、医療機関、他の団体などとつながりがつくられ、その関係がその後も続いていくことを目指しています。そのため、生活の困難を抱えている人にはしっかりと食事をとってもらい、体の回復から心を回復して新たな生活を作り上げていってもらうことの一助になることを目指します。

入力数 175 字

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
①DV被害者・うつなどの方が、つらい過去から少しずつ脱却していくことの一助になる関りをつくる。	昼食会 ・開催回数 ・参加者数	開催の記録	開催数：週１回（計37回） 参加者数：毎回２人程度	2021年5月末
	料理をつくってみんなで食事会 ・開催回数 ・参加者数 ・支援機関の参加数	開催の記録	開催数：月１回（計6回） 参加者数：毎回６人程度 支援機関の参加数：延べ3組織	2021年5月末
②統合失調症の方が、地域の人・関係者の人たちと理解しあえる土壌を醸成することの一助になる関りをつくる。	懇談食事会 ・開催回数 ・参加者数 ・関係者の参加者数	開催の記録	参加者：計 3回 参加者数：毎回10人程度 関係者の参加数：毎回4 人程度	2021年5月末
③子ども食堂に出てこれない子どものもとへお弁当を届けることを通じて困窮の一助になる。	お弁当配布活動の実施回数 お弁当の配布数	事業の記録 お弁当配布数の記録	活動回数：月平均約8回（計47回） 弁当配布数：1回30個	2021年5月末
④ホームレスの方への食事の提供を通じた困窮状況への支援活動。	お弁当の配布数	お弁当配布数の記録	弁当配布数：月1回18食	2021年5月末

(4)活動	時期
①DV被害者・心を病む人への支援 ・DVにあっている人と昼食を週1回一緒にとってお話をする。参加者は2人程度。 ・医院から紹介のあった心を病む人を中心に、月1回程度一緒に食事作りをしながらお話をする。保健師等関係機関からも参加を求める。参加は6人程度	2020年12月～2021年5月
②統合失調症の方との懇談 ・本人を含め担当ケアマネージャー、専門医師、保健師、アテラーノ旭の配食担当者等が集まり、食事をしながら懇談する。 ・病気を理解し、本人の居場所を作れるように『まちのお茶の間』において合計3回程度、1回１～２時間程度の懇談の機会を設ける。本人のほか訪問看護の内科医師等も参加も設ける。	2020年12月～2021年5月
③子どもにお弁当を届ける 　月1回実施している子ども食堂的な食事の提供回数を増やし、事業期間中47回（月平均約8回）、1回30食、特に給食の無い日曜、祝日や冬休み等において無償で提供する。広報等は小学校のスクールソーシャルワーカーや民生委員等との連携の上、必要な子どもへの情報が届くようにし、周りから違和感を与えないように配慮する。	2020年12月～2021年5月
④ホームレスにお弁当を届ける 　ホームレス支援団体「こうちネットホップ」との連携と、活動への支援として月1回（毎月第三金曜日）、1回18食程度の弁当を提供し、支援活動とする。	2020年12月～2021年5月

Ⅳ.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	全体責任：山中雅子 経理担当：渡辺克志 【DV被害者・心を病む人への支援】担当・相談：山中雅子（主たる担当）　岡本美千子他職員2名　本間厚子（地域住民） 【統合失調症などの人との懇談】担当：山中雅子（主たる担当）　筒井勢津子（職員）　畑山八重（ケアマネージャー） 【子どもにお弁当を届ける】主たる担当：遠藤穣 食材買出し：遠藤穣 調理　　：遠藤穣　岡本美千子　筒井祥子（交代制） 配膳　　：弘嶋洋子　山中雅子（交代制） 配達　　：遠藤穣　丸山靖雄（交代制） 【ホームレスへ弁当を届ける】主たる担当：山中雅子 調理　：筒井祥子 配膳　：山中雅子 配達　：「こうちネットホップ」田中きよむ（代表）　岡村啓佐
(2)他団体との連携体制	【DV被害者・心を病む人への支援】・高知県女性相談支援センター　・NPO法人はすのは　・高知市社会福祉協議会　・らくだクリニック（診療内科、精神科） 【統合失調症などの人との懇談】　・こうち生協病院介護の窓口　・本人担当医師　・高知市社会福祉協議会　・高知市保健所 【子どもにお弁当を届ける】　・子どもの居場所「みんなのひろっぱ」　・旭東小学校ソーシャルワーカー　・高知市社会福祉協議会 ・高知市弘化台卸売り団地 【ホームレスへ弁当を届ける】　・ホームレス支援団体「こうちネットホップ」　・無料低額診療・潮江診療所　・NPO法人はすのは
(3)想定されるリスクと管理体制	新型コロナウィルス感染がまだ収まっていない中で行う事業です。特に各事業とも人と人との接触が避けられない事業です。手洗い・マスク・消毒・人との距離を保つなど必要な感染対策を行います。 　また、各事業とも社会的に十分認知されていない部分もあり、本人への誹謗・中傷につながりかねないことも考えられます。担当する各メンバーの人たちはこうした問題に理解ある職歴を持ってはいますが、そのことに関し十分に共通した認識をもっておく必要があります。 　暮らしに諸々の困難を抱えたこども達を理解しどう寄り添うか、個人情報をいかに守るかなどのことを考えておかなければなりません。支援される人たちが心無い誹謗や差別を受けないよう配慮をして事業を進めていかなければならないと考えています。そのため事業にかかわるメンバーを中心に研修会を行うことを計画しています。

Ⅴ.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無				
コロナウイルス感染症に係る事業				
①本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している(予定も含む)	有　☐	無　☑	有の場合 その詳細	
②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない	無　☑	※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）		
(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績				
（特にありません）				